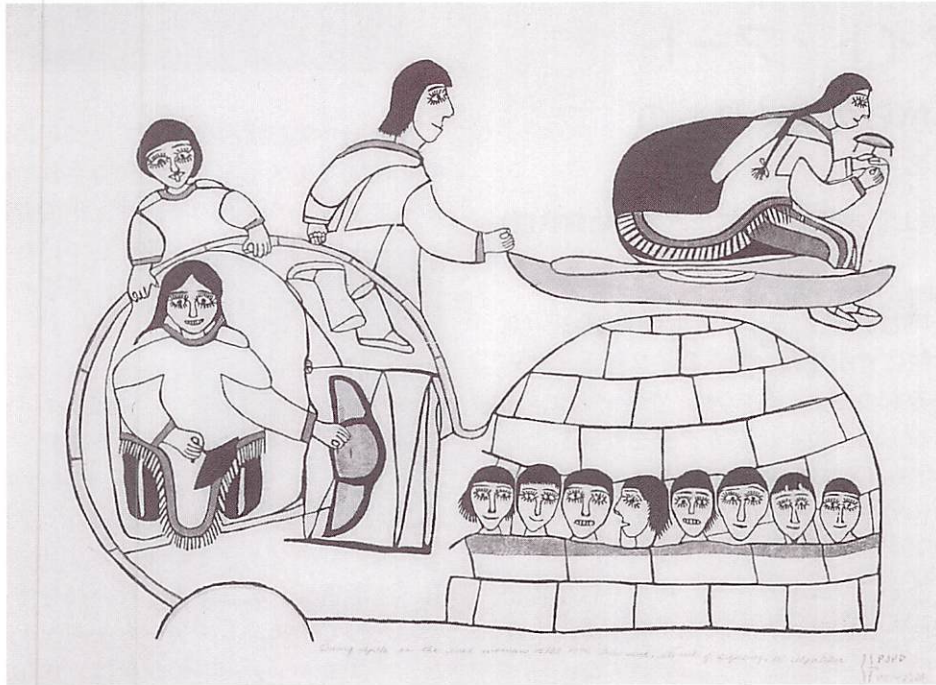




# 北方民族博物館だより

No.60



KM6

版画〈キヴィックは邪悪な女につばをかける〉

Janet Kigusiuq 1979年作

ベーカー=レイク 47.0×64.0cm

イヌイトの民話の主人公であるキヴィック（Quivik：後列左）の冒険の一場面を描写している。イグルーのなかの女性は女性用ナイフ〈ウル〉を持って、ブーツを作っている。この女性は人食いで、犠牲者の頭がイグルーの中に並んでいる。そのうちの一人がキヴィックに逃げるよう呼びかけている。（2頁参照）

- 1 版画〈キヴィックは邪悪な女につばをかける〉
- 2 企画展『イヌイト・アートの世界 光洋マテリアカ寄贈資料展』  
企画展関連講演会『イヌイト・アート 極北からのおくりもの』
- 3 北海道博物館紀行「ところ遺跡の館」／  
ロビー展ミュージアムコレクション『北の楽器展』
- 4 INFORMATION



北海道立北方民族博物館  
Hokkaido Museum of Northern Peoples

## 平成17年度企画展 イヌイト・アートの世界

### 光洋マテリアカ寄贈資料展

2006. 2. 4 - 3. 26

## 企画展関連講演会 イヌイト・アート

### 極北からのおくりもの

2006. 2. 4

講師 岸上 伸啓氏（国立民族学博物館教授）

本企画展は、平成16年度に光洋マテリアカ株式会社（名古屋市）から当館に寄贈された70点のイヌイト・アート作品を紹介するものです。このコレクションは、同社の創業者である吉田三栄吉氏がカナダを訪問した際に、イヌイト・アートの素朴さや自然との共生という精神に感動し、1997年から1999年にかけて収集したものです。

企画展の初日のオープニング・セレモニーには吉田三栄吉氏ご夫妻にもご出席いただき、テープカットを行いました。

70点の作品の内訳は、彫刻が40点、版画が29点、絵画1点です。彫刻の制作地はカナダ極北地域のさまざまな地域が含まれています。版画のなかの18点はヌナブト準州のベイカー＝レイクで制作されたものです。また、版画には1960年代の黎明期に創作活動を始めた第一世代の著名な作品も多く含まれています。

こうした作品の背景を理解する上では、カナダ極北地域の自然や生活を知ることが有益なため、研究者の方々やカナダ大使館の協力から借用した写真を展示することができました。さらに、版画や彫刻、絵画の制作状況を紹介する映像を編集して20分間の映像を展示しました。原作は『イヌイトの芸術／Art of the Inuit（総集編）』1975（カナダ映画制作庁）と『彫刻家／Carver』1995（イグルーリック・イスマ・プロダクション）です。

最後に、当企画展の開催にあたり、次の機関、個人の方々からご協力をいただきました。記して感謝申し上げます。

光洋マテリアカ株式会社 岸上 伸啓氏  
大村 敬一氏 カナダ大使館



企画展の関連講演会として、20年にわたってカナダ極北地域でイヌイト文化を調査されてきた岸上伸啓氏にイヌイト・アートの歴史や文化的背景、現状などを紹介していただきました。以下に、講演の概要を紹介いたします。



現在、イヌイト・アートとして石や骨・角・牙製彫刻、版画、壁掛けが知られている。

元来、カナダ極北地域のイヌイトは、石やセイウチの牙、カリブーの骨などで狩猟具、生活道具、玩具やまじない具を作ってきたが、販売品としてイヌイト・アートを制作する伝統はなかった。イヌイト・アートの誕生は、1948年にカナダ人芸術家ジェームズ＝ヒューストンが偶然訪れたハドソン湾西岸の村でイヌイトの彫刻を手にしたことから始まった。彼はイヌイトの手による彫刻の芸術性に注目し、これらを都市の市場で販売することを思いついた。イヌイトが制作した石製彫刻をカナダの都会に運んで展示即売会を行い、成功をおさめた。さらに、政府や芸術市場に働きかけイヌイト彫刻の制作と販売体制を確立していった。その後、彼は日本で版画の技術を学び、「原画制作」、「版木制作」（最初は石板を彫って版木とした）、「刷り作業」の分業による版画制作という新たなイヌイト・アートを導入した。さらに、女性たちは布にアップリケや刺繍を施して壁掛けを作り始めた。

イヌイト・アートはグローバルな市場をつうじてイヌイトの意識やメッセージを伝える役割をはたし、また、現金収入を得る手段としてイヌイト経済を支えてきた。その制作・販売体制を維持するために、極北の村々には協同組合がつくられ、作品の品質を維持しながら販売促進を図ってきたが、1980年代から市場の飽和状況や一部作者のエリート化など課題も浮き彫りになってきている。

（学芸課 渡部 裕）

## 北海道博物館紀行 「ところ遺跡の館」

2005. 11. 26

講師 熊木 俊朗氏  
(常呂町教育委員会)

ところ遺跡の森主幹)<sup>※</sup>

北海道博物館紀行は、道内の博物館を紹介する催しです。今回は講師に常呂町教育委員会の熊木俊朗氏を迎え、常呂町に眠る遺跡のお話と遺跡から出土した「勾玉」づくりの指導をお願いしました。

常呂町には、旧石器文化からアイヌ文化までの遺跡が町内に点在しています。特に、「ところ遺跡の森」とよばれている常呂町土佐のあたりには、現在でも竪穴住居の窪みのあとが多く残っています。これらの遺跡の重要性に最初に注目したのは、常呂町在住の故大西信武氏であったといえます。氏が戦前から長年にわたり行政や大学に熱心に遺跡の調査・保存を働きかけた結果、1965年、常呂町に東京大学の実習施設が開設され、今に至るまで町との連携により先史文化の調査・保存・活用に努めているというお話を紹介いただきました。

次に縄文文化期の遺跡から実際に出土した「勾玉」を作ってみました。材料には滑石とよばれる、爪先でも傷を付けることが出来るほど柔らかい石を使いました。まず、滑石の表面に鉛筆で勾玉の絵を描き、その輪郭に沿って耐水ペーパー（紙やすり）で削りながら形を作っていました。最初は荒く削り、次に丸みを帯びた箇所を慎重に成形し、最後に仕上げとして光沢をだすようにした約1時間の作業でした。

小学生低学年から一般の方まで、自分の好みにあったものを作ることが出来るようにと、講師による親切な指導のおかげで、ひとつひとつオリジナルの勾玉が完成し、参加者の皆さんに満足頂けたようでした。

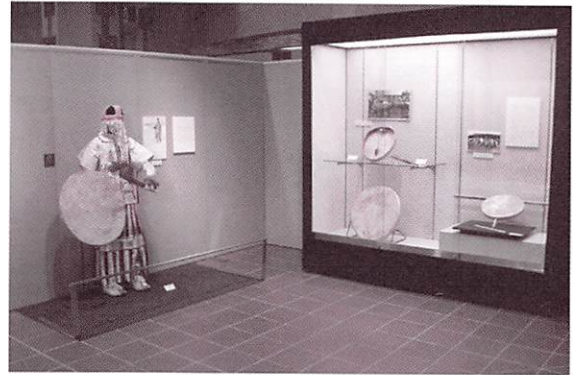
(学芸課 角達之助)



※常呂町は平成18年3月5日に北見市となりました。

## ロビー展ミュージアムコレクション 『北の楽器展』

2005. 11. 3 - 12. 4



北方地域の諸民族にとって、楽器は娯楽のためだけの道具ではなく、信仰の世界と密接な関係を持っていました。楽器の演奏や歌や踊りは、娯楽であると同時に、神や精霊に近づき、喜ばせるものでもありました。

本ロビー展では、北方地域で古くから愛され続けてきた以下の楽器を紹介しました。

### <トンコリ（五弦琴）>

トンコリは、サハリンや北海道の宗谷地方に分布した弦楽器です。本来はシャマンが用いる祭具でしたが、次第に娯楽のために用いられるようになったと考えられています。

### <口琴>

口琴は、竹や木、骨、金属などで作られ、弁をはじいて振動させ、その音を口腔で共鳴させる楽器です。音の強弱や音色の変化は、口腔の形や容積を変化させて調節します。

### <太鼓>

北方地域の太鼓は、一様に片面太鼓（片面にだけ皮を張る太鼓）です。把手の付き方やたたき方は、(1)太鼓の裏側に十字に組んだ紐を把手にした「内側把手太鼓」の「皮」をたたく（ユーラシア大陸側）(2)枠の外側に棒状の把手をもつ「外側把手太鼓」の「枠」をたたく（アメリカ大陸側）(3)「外側把手太鼓」で「皮」をたたく（ベーリング海周辺）の、三種に大別できます。

本ロビー展開催にあたり、嵯峨治彦氏（馬頭琴・喉歌奏者）、OKI氏（トンコリ奏者）、宇田川洋氏（東京大学教授）、水野悦三子氏（網走市在住）の皆様にご協力頂きました。記して感謝申し上げます。

(学芸課 角達之助)

## INFORMATION

### 資料収集評価委員会



平成17年度第3回北方民族博物館資料収集評価委員会を、平成18年3月3日に開催しました。委員は岡田淳子氏（北海道東海大学名誉客員教授）、津曲敏郎氏（北海道大学大学院教授）、岩崎まさみ氏（北海学園大学教授）、伊藤大介氏（北海道東海大学教授）です。

### 寄贈資料紹介

◆東京都の風間伸次郎氏からナーナイの子ども用布製衣服他、全3件が寄贈されました。

### 行事報告

◆ロビーコンサート2005  
青少年のための室内楽の夕べ  
2005.12.17 [土]

主催：青少年のための室内楽の夕べ実行委員会

後援：財団法人山田記念青少年育成財団、財団法人北方文化振興協会

札幌交響楽団員による弦楽四重奏を行いました。



◆博物館クラブ フェルトでつくる  
ペットボトル・ホルダー

2006.1.7 [土]

講師 齋藤玲子（主任学芸員）

◆博物館クラブ イヌイト・ヨーヨー  
をつくって遊ぼう

2006.1.14 [土]

講師 渡部 裕（学芸課長）



◆企画展・展示解説会

2006.2.4 [土]

講師 渡部 裕

◆博物館クラブ 冬の森DEウォーク  
ラリー

2006.3.4 [土]

講師 中田篤（学芸員）、工藤秀記（道立オホーツク公園主任）



### カレンダー

小清水町立水上小学校のみなさんがつくった版画のカレンダーが今年も受付壁面を彩っています。



### 出版物発行

平成17年度企画展図録『イヌイト・アートの世界～光洋マテリアカ寄贈資料展』を発行しました。

B5判 48頁

目次

- ・「イヌイト・アート」の創造カー現実のイメージ化・イメージの現実化  
大村敬一
- ・イヌイトの幻想世界を映す  
谷本一之
- ・図版
- ・地図
- ・展示資料一覧



### 指定管理者制度

北海道立北方民族博物館には平成18年4月1日から指定管理者制度が導入されます。

北方民族博物館だより  
No.60

平成18(2006)年3月17日発行  
編集・発行 北海道立北方民族博物館  
〒093-0042 北海道網走市字潮見309-1  
電話 0152-45-3888 FAX 0152-45-3889  
e-mail : tonakai@hoppohm.org  
http://hoppohm.org